

平成 27 年 11 月 27 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 笠原 久恵 様

議会報告会 1 班  
班長 秋間 高義  
野田 宏規  
森田 洋一  
阿部 治正  
中村 彰男  
森 亮二  
徳増 記代子

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 27 年 11 月 15 日 (日)  
午前 9 時 45 分～午前 11 時 30 分
- 2 場所 駒木台福社会館
- 3 欠席議員 無し
- 4 参加者数 15 人  
(市民 8 人、流山市議 4 人、他市議員 2 人、事務局 1 人)
- 5 報告内容  
①平成 26 年度決算審査について  
②地域コミュニティについて
- 6 意見交換内容

<平成 26 年度決算審査について>

市民 併設校が開校したが、総ガラス張りの造りだ。それで防災拠点になりうるのか。議会ではその点は問題にならなかったのか。

議員 安全性に配慮して強化ガラスが用いられており、割れても尖らないので、怪我はしにくいと思われる。

市民 犯罪が多発している。空き巣、車の盗難などもあるが、一番被害が大きいのは詐欺被害で、今年は39人、大きな問題だ。市民パトロール隊としても、阻止する取り組みを立ち上げてほしいと市長に要請した。全国的に大きな問題となっており、柏市は4千人弱にアンケートを行い、第三者機関で報告書をまとめ、条例化する動きとなっている。市の大きな責務ととらえるべき。

議員 流山市の取り組みの実情を調べ、議会としても市の取り組みを促すことを、みんなで検討していきたい。

※議会報告会后に第1班で調査・協議を行いました。現在「流山市民安全パトロール隊」に関しては、「報酬なし、制服などは支給」と明記して募集しています。また、同隊の活動に対して市からは、制服、パトロール車の燃料代、その他必要品は支給されている状況です。以上のような点も踏まえすと、更なる援助に策については喫緊の課題ではないように思います。また柏市での『おれおれ詐欺対策の条例化』の動きの件に関しては、問い合わせをしましたところまだ検討段階とのこととありますことから、第1班としましては近隣市の動向なども踏まえて、支援策の拡充などについて研究を重ねていきたいと思えます。(平成27年12月7日の班会議にて確認)

市民 市の債務負担行為について、どう考えるか。小山小学校の建設で採用したPFI方式は、市の借金を増やさないで民間活力を用いることで市の借金を増やさない方法と言われた。体育館の建て替え事業はPFIがふさわしかったが、採用しなかった。どのようなことがデメリットとされたのか。もう一度議会でも取り上げて検討して欲しい。

議員 市債は抑制する方向だが、市債をもって借金だという認識は執行部はもっていない。PFIの概念も変わってきている。費用対効果が検証されていると思うが、第三者機関がやっている。

議員 PFIはメリットがあると言われ、真に受けて推進してきた部分はある。当初は安くできるという理解だった。小山小ではいくらメリットがあったのか計算させたが、実際には金額的にはそれほどではなかった。現在では、各自治体はPFIには尻込みしている。メリットについて精査していく必要がある。当局の答弁でもメリットについては明確でない。本当に良いのであれば取り入れていくべきだが、今はデメリットがあると感じている。

議員 SPC（特別目的会社）にもっとインセンティブを与えないと、民間も乗ってこない。バリューフォーマネーを検証する必要がある。日本的風土の中ではPFI進まないのではないか。過去の手法ものになっているという声も聞く。

市民 決算内容の説明で、歳出の内訳は書いているが歳入の内訳がない。来年は歳入の内訳も加えてほしい。歳入については、市がどれだけの借金を抱えているかを載せてほしい。

議員 口頭で歳入の内訳を説明。

議員 次回以降は、資料作りは注意を十分に払っていききたい。2月に発行する財政白書に詳しく記載しているが、議会HPに内訳を掲載するなどして議会でも対応を検討していききたい。

市民 運河駅の自由通路の三角コーナーは、街に収益は生じているのか、再検討して欲しい。民生委員や里親はボランティアで行っており、限界もある。民生委員不足の解消を早く進めてほしい。保育士が辞めていく背景には、報酬が東京都内と10万円も違うこともある。こうした点も調査をしてほしい。

議員 保育士不足の背景にある処遇問題については、確かに独自の対策を講じて報酬の上乗せしている東京都などと比べれば劣っている。流山市は、保育士資格を取るために専門学校などに通う人に奨

学を出す事業、保育士資格を持った潜在保育士発掘事業などに取り組んでいるが、まだまだやれることがある。議会としても、市の独自の取り組みを強化するようにと共通要望の中で主張している。問題意識は同じ。

議員 運河駅の周辺は商業施設が多いわけではないので、経済効果の算出、試算は難しい。しかし経年的に定点観測をするなどしてしっかり見ていく必要がある。ただし人の流れは確実に出てきていると思われる。

民生委員、実費負担などの支援を行うことで人員の確保にむけて努力をしているが、実情としては増えていない。マンション地域などでは確保が難しい。先進地域で取り組まれている民生委員の補助員の制度などを研究し、手当の増額などが可能かも検討していきたい。

市民 決算の方で市債発行が増えているがそれは後年度負担としてとらえるとの発言があった。私は、次の世代が払う借金と理解していたがどうなのか。

議員 市債はお金を借りるので借金といえば借金、また、現役世代を中心とした税金を投入して借金せずに様々な事業をやるべきというのもひとつの考え方だが、後年度負担するということはお金がないから借りるという発想ではなく、中長期的な視点から世代間の負担を公平化することがより公平であるという考えかたに基づいている。

議員 千葉県下で一位の人口増のまちなので、公共事業の推進はやむを得ない。その場合、次の世代にも借金を背負ってもらうという考え方。新設校に通うことを目的に来る人もいる、新しいまちづくりが新しい人の流入を促している。そういう中で、借金をして積極的に公共事業を行っていくという自治体もある。

市民 市民が負担していくという認識を持てるよう、緊張感の伴った受け止め方ができるよう、広報などでの説明も工夫をするべき。

※ご指摘の踏まえ、議会広報広聴特別委員会にも申し入れました。  
また広報ながれやまの更なる充実についても、申し入れてまいります。

す。(平成 27 年 12 月 7 日の班会議にて確認)

市民 流山市の人口は 30 年後には 12～13 万人に減るという予測もある。借金を増やすのは問題だ。

議員 人口推計にはいろいろなものがあるが、市としては 30 年後も流山は 15 万人を維持できるとの推計を持っている。担税力がある内に返済できる範囲内で借金をしていると捉える必要があると思う。一挙に 12～13 万に減るといのはドラスティックな推計。人口推計も精度を高めていく必要がある。

#### <地域コミュニティについて>

市民 地域コミュニティについてはリーダーが大切、奉仕の気持ち大切。パトロール隊活動は個人負担も多い。なぜやっているかと言えば、流山市の犯罪を減らすことに役立っていることが唯一の慰め。自分の時間全て投げ出してやっているが、そういう人を増やすこと大事。

議員 パトロール隊も自治会と同様、高齢化が進んでおり、後継者をどう育てるかが課題になっている。やる気を維持することは大変。議会としても、どうやれば感謝の気持ちを示すことができるか、行政に働きかけていくことが必要だと考えている。

※同趣旨のご意見を頂きましたことから、2 ページ目で第 1 班の考えをお答えさせて頂きました。(平成 27 年 12 月 7 日の班会議にて確認)

市民 定年退職をして地元デビューした。自治会の班役員をやったが、1 班 10 軒で回覧を回すだけ。音頭とろうとすれば家族はやめなよと言う。引き受ければやめられなくなる。やりたい気持ちはあるが、旧住民と新規転入組のコミュニケーション取れていない。神社だったら地元民、団地だったら団地の中だけでの祭りなどとなり、より以上の結びつきがうまくいっていない。会費徴収があればむしろ参加しやすい。ノウハウを教えてほしい。

議員 にぎわっている地域の例を挙げれば、昔は60所帯だったが今は区画整理などもあって1500所帯に。流山市には無形文化財が三つある。茂呂神社のじんがら餅、鱈ヶ崎のおびしゃ祭り、赤城神社の大しめ縄。これらの行事は新旧住民のへだたりもなくしてくれる。こうした資源も活用しながら、新しく生まれてくる子どもたちが誇れる地域にしていくことが出来る。

議員 良いコミュニティは、良いリーダーがいる、みんな仲が良い。若い人はメリットがないからと自治会に入りたがらない。気軽に飲みを誘うなどから始まり、お祭りをどうするかなどに話がつながっていけばいいのではないか。

市民 自治会やコミュニティを中心にしなければならないという発想を転換する必要がある。新住民が中心、その中での新旧はあり、職業歴、会社員もそれぞれ、自営業者等々。道普請、運動会、夏祭り、文化祭、自治会館運営、資源ごみ回収、高齢者の見守り活動、そうした中で業務が増えてまた問題化している。仕事の取捨選択、合理化も必要、若い人に仕事を託している。

市民 私は自治会には出ない。この時代に自治会主体のコミュニティにこだわる発想は転換させる必要がある。自治会の仕事は三分の一に減らす必要がある。地域のベテランは地域を治めたいと思うのだろうが、若いものに譲ることが必要。自治会などではなく、機能団体、特定目的の団体を重視し、議員もその中に入って行政に問題提起すればよい。語学を活かした活動、外国人が泊まることのできる仕組み、そうしたボランティア活動を市として支援して、500人、300人の人をつくるなどが必要。

市民 自分の地域ではコミュニティが出来ていない。自治会長がタウンミーティング、報告会に出てこない。タウンミーティングで質疑をするとしゃべらないようにとの声が出る。市会議員は無能。併設校は出来たが、西初石中学は生徒激減。場当たりの政策と言われても仕方がない。議員は市民と一体となって、その声を聞き、深めていって、その活動に活かしてほしい。

<他市の市議会議員の発言>

成田市議会議員 成田市議会でも9月に議会基本条例を制定し、来

年 2 月には初めての議会報告会を、委員会ごとにやる予定。先進的な流山市議会に見習って議会改革を進めていきたい。

佐倉市議会議員 平成 23 年 4 月から 5 回の議会報告会を開催している。流山市議会の取り組みは学ぶべきものが多い。引き続きともに発展していければ良いと思う。

## 7 参加者から議会への要望

- ① 柏市の条例化の動きなども参考にしながら、多発する犯罪を防止するための取り組みを行ってほしい。
- ② P F I 方式のメリットやデメリットについて、もう一度議会でも取り上げて検討して欲しい。
- ③ 議会報告会で市の財政を説明する際には、歳入の内訳を借金も含めて説明してほしい。

※今回の議会報告会においては、議会の合意事項を主として、お伝えすべく、行政資料の詳細を割愛致しました。今後は、ご説明に際し、十分な資料を準備するよう心掛けます。(平成 27 年 12 月 7 日の班会議にて確認)

- ④ 運河駅の整備で街に収益は生じているのか、再検討して欲しい。
- ⑤ 民生委員不足の解消を早く進めてほしい。
- ⑥ 保育士が辞めていく背景の調査をしてほしい。

## 8 所感

阿部 治正

参加者数は、市民だけに限ってみると 8 人であり、決して多いとは言えない。

しかし、限られた時間の中でも、市民から率直な意見がたくさん出された。議員の側からも、丁寧で正直な回答が返され、充実した意見交換が行われた。

こうした率直な雰囲気の下での議会報告会が重ねられていけば、その感想などが市民の中で口づてでも伝えられていき、参加者も更に増えていくことも期待できると思われる。

森田 洋一

全体的に参加者と積極的な意見交換ができたと考えている。

資料準備、報告会の時期や回数、どういった内容にするかなどは、皆さんと議論しながら、改善できるところは改善していきたいと思う。

各議員の役割分担や得意分野それぞれ発揮できて、よかったと感じる。

森 亮二

今回参加をして頂き発言をなされた方々は市議会報告会のみならず、市のタウンミーティングや市主催の行事などで頻繁にお見かけをする方ばかりである。誤解を恐れずに言えば、参加者の固定化と言われるかも知れないが、違った見方をすれば市政に関心が高く、様々な事情を把握されている方々である。今回はその方々の知識や想いを存分に感じる事が出来る機会となった。大切なご意見として市議会の議論の場で生かしていきたい。

野田 宏規

参加者も多く、意見も活発で、とても良い報告会だったと考えます。ただ、注意を払っていても、「議会」としては、当てはまらない、質問や意見も寄せられたため、各人が発言前に議会の立場に触れる必要性を感じました。また、行政側が提出している資料も、分担の上、持ち込む必要があったと思います。

徳増 記代子

決算審査後の議会報告会でしたが、その決算についてこれまでになく活発な意見や質問があり、市民の関心の高さが感じられました。



中村 彰男

初めての駒木台福社会館にての総務委員会メンバーによる議会報告会。久しく私たちの委員会メンバーと参加されました市民の方々との融和のとれた報告会が、限られた時間ではありましたが、有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございます。感謝申し上げます。参加された皆様の声を真摯に受け止め、精査し、今後議会に反映させて参りたいと考えております。

秋間 高義

市民の皆様から様々なご意見やご要望があり、限られた時間の中で有意義な意見交換となりました。皆様から頂いたご意見やご要望を、今後の議員活動の中に活かして参りたいと思います。